



笠間稲荷神社

笠間稲荷神社◎社報

胡
桃

く
る
み

菊まつり紹介
講中を訪ねて



笠間稻荷神社祭事予定

七月

一日

月次祭

七日

一の午

八月

一日

献^{けん}燈^{とう}祭^{さい}

月次祭

事比羅祭

末社祭

九日

旧大祓式

十二日

一の午

献燈祭

八月一日（第一日曜日） 午後五時

火は、我々の暮らしにとつて大きな恵みをもたらしてくれる欠かすことのできないものです。その一方で、時には災いの元にもなります。火がもたらす日々の恵みに感謝し、災いの元にならないよう祈願するとともに、その揺らめきで我々の祖霊を和め、稻荷大神様の御神威により国家繁栄とともに皆様の諸祈願成就を祈念致します。

皆様の祈願が書かれた行燈に夕刻、一斉に灯りが灯されます。

*行燈をご奉納される方は、当社にお問い合せ下さい。

紙行燈 壹千円より
小行燈 伍千円より
大行燈 壹萬円より



小笠原流弓馬術礼法三々九

手挟式

九月二十三日 午後十二時三十分

古来三々九手挟式は、武家社会では正月四日の弓始式の時に限り行われた厳格な弓の儀式で、文武を統べる道として天下泰平を祝う射礼です。心身を正し、邪心を祓い、境内にて厳格に儀式が行われます。



本宮祭

十月二十五〜二十七日 午前十一時

本宮祭は当社の御祭神・宇迦之御魂大神の御分霊を勧請し、地域の神社や、家庭の守護神としてお祀りされている崇敬者を全国からお招きして、大神様のご加護に感謝すると共に、国家の安泰、各奉祀者の繁栄を祈る大祭です。当社の御分霊は、北海道から九州、さらには海外にまで広くお祀りされております。大祭は春と秋交互に毎年斎行いたしております。

九月

一日

月次祭

五日

一の午

二十二日

中秋祭

二十三日

小笠原流弓馬術礼法三々九手挟式
秋季皇霊祭遙拜式

さんさんくてばさみしき

十月

一日

月次祭

十一日

一の午

十六日

菊まつり開催奉告祭・開場式

十七日

神嘗奉祝祭

十九日

尚齒祭

二十五〜二十七日

本宮祭

もとみやさい

十二月

一日 月次祭

三日 神事流鏝馬

明治祭

四日 一の午

十五日 霜月祭

二十一日 舞楽祭

二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭

神事流鏝馬 (11頁参照)

十一月三日 十時、十四時

江戸時代に八代將軍徳川吉宗の命を受けた小笠原流二〇代小笠原貞政が制定し、現代に伝えられてきた小笠原流の流鏝馬です。

小笠原流一門の射手および氏子、古武道振興会の方々が奉仕し、稲荷の大神様と縁の深い農業の豊凶を占うと共に、流鏝馬の古儀、古術を保存する為に行われます。

新嘗祭・献穀献繭祭

十一月二十三日 午前十時

新嘗祭は、宮中および全国の神社で行われる収穫祭で、豊穰を祈る二月の祈年祭と対置されます。

当神社では新嘗祭に併せて「献穀献繭祭（けんこくけんけんさい）」が行われ、今年とれた新穀や新繭を奉納し、神前に収穫を感謝いたします。

また、農業と

養蚕業の発展をめざして、献穀品評会、献繭品評会が行われ、出品された品々は境内に展示され、厳格な審査の後、優秀者を表彰します。



御火焚串炎上祭

十二月二十二日 午前九時

当社では、毎年冬至の日に御火焚串炎上祭を斎行致します。御火焚串は木製の板に参拝者自身が住所・氏名・願事などを記入し神前に奉納したもので、火の霊力によって罪穢れを祓い、願意成就・無病息災・除災招福を祈願します。

積み上げた御火焚串に点火し、「大祓詞」（おおはらえのことば）を全員で奉唱いたします。

＊串をご奉納される方は、当社にお問い合わせ下さい。

【初穂料】 伍佰円

鹿島祓

十二月二十八日 午前十時

十二節の青竹の頂部に山鳥の羽を差し立て、上記写真のように飾り付けた当社独自の祓具と酒、塩を用い、社殿、神苑を祓う神事です。

この、鹿島祓により御本殿を始め、社務所各部屋を祓い清めたのち、当社は新年を迎える準備に入ります。

十二月

一日 月次祭

十日 一の午

二十二日 御火焚串炎上祭
おひたぎぐしえんじようさい

二十三日 天長祭

二十八日 鹿島祓
かしまばらい

大晦日 年越の大祓

第103回 笠間の菊まつり

①菊人形展「龍馬伝」

明治維新の立役者として世に知られる龍馬。その生涯・人間像を菊人形を通して表現します。

龍馬伝の場面

- 第1景 少年時代の龍馬
- 第2景 龍馬と佐那
- 第3景 黒船との遭遇
- 第4景 龍馬、水戸藩士と会う
- 第5景 勝海舟の評判
- 第6景 龍馬、咸臨丸に乗る
- 第7景 薩長同盟
- 第8景 寺田屋事件
- 第9景 龍馬、お龍と結婚する
- 第10景 亀山社中から海援隊へ
- 第11景 龍馬の里帰り
- 第12景 写真好きな龍馬
- 第13景 龍馬とお慶
- 番外① 桜田門外の変
- 番外② 龍馬、お龍と新婚旅行



②由来と歴史

当社の菊祭りは先々代宮司塙嘉一郎が日露戦争で荒廃した人心を和める為に、明治四十一年に社内に農園部を設け、境内に菊花を展示したことが始まりです。その後、栽培技術の向上や見せ方の工夫を重ね、現在に到ります。笠間の菊は国際菊花展で一等賞に当たる「ブルーリボン賞」を受賞するなど様々な品評会において高い評価を頂いております。

現在は茨城県菊花連盟や笠間市の菊愛好家達、笠間の小中学生の協力を得て、盛大に開催されております。

日	時
平成二十二年十月十六日(土)	
十一月二十三日(火)	
午前八時半～午後四時半	
笠間稲荷神社境内	
菊人形展「龍馬伝」全十三景 十番外	
入場券	八〇〇円(大人)
	四〇〇円(小人)
会場	料金



千輪咲き



大菊 「厚物」と「管物」



一文字菊



大丁字菊



盆栽菊



懸崖菊



古典菊

菊まつりを彩る菊の花



③ 菊人形について

当社の菊人形作りには二種類あり、一つは伝統的な技法を用い、菊師が菊人形の元になる胴ガラに小菊を衣装の替わりに着せるもの、二つ目は、懸崖菊などに用いられている技術を応用し、鉢植え(苗)から菊を銅ガラにあわせて生育させる方法です。開花の後、人形師が、頭、手足をとりつけ完成に到ります。前者は多くの色の菊を用いることが出来る反面、花が枯れてしまうことにより着せ替えが必要となり、後者は鉢植えから生育させることにより期間中枯れることなく着せ替えを必要としませんが、多くの色を使うことができないという点があります。ぜひ、その点をお含み頂き、二種類の菊人形を見比べてみて下さい。



笠間稲荷全景図



特作花壇展



菊人形展「龍馬伝」



きつねの土面展



絵画コンクール展



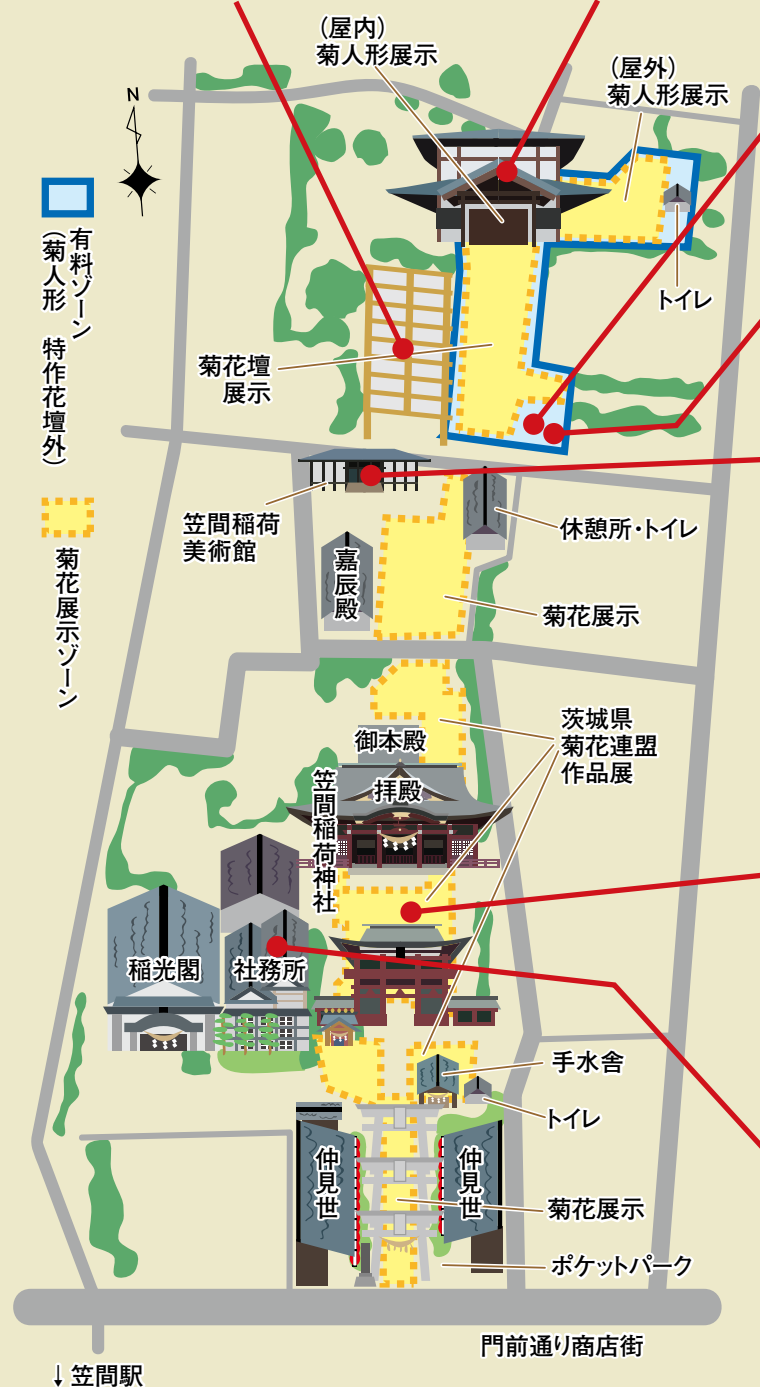
『屏風絵展－室町～現代－』
期間 10月16日(土)～11月28日(日)



茨城県菊花連盟作品展



御祈祷受付 初穂料 3,000 円より



講

中を訪ねて 中峰笠間講



▲ 千葉県香取市高萩の中峰地区に鎮座する中峰稲荷神社は当社御分霊が祀られています。

講員等からは「いなっさま」と呼ばれ、親しまれ、同時に地元の守り神として篤く崇敬されています。鎮座50周年を記念して鳥居が、鎮座100周年には手水舎が氏子一同より奉納されました。

中峰笠間講は、平成十九年に講創立百周年を迎えた歴史ある講中です。

明治初期、中峰地区は国所有の野原でしたが、後に国から畑の払い下げを受け、徐々に定住者が増加していきました。明治四十年旧十二月二十五日、嶋田作蔵氏・高木興五作氏・岡田喜八氏の発願により、五穀豊穡の神徳篤い笠間稲荷神社の御分霊を勧請し、郷土の守護神として祀ったのが中峰稲荷神社のはじまりで、同時に本社への参拝組織たる講中も発足したと伝わっています。

昔より、講中で笠間稲荷神社へ参拝した農家は豊作であったと言われています。また、交通が発達していなかった時代には、自転車に乗って泊まりがけの参拝もあったとの事、講員の篤い崇敬心をうかがい知ることができます。

▶ 明治四十二年に奉納された「胡桃下稲荷神社」の幟旗は、現在も大切に保管されています。「胡桃下稲荷神社」とは、昔、胡桃の木が群生する地に祀られていたと伝わる、笠間稲荷神社の別称です。





高木 孝明

中峰笠間講役員
中峰区長
建築業
中峰芸座保存会会員

子供の頃から中峰稲荷神社を地元の守り神としてずっと信仰しています。

旅行に出かける時は中峰稲荷神社に安全祈願をして出かけます。お陰で何事も無く楽しい旅をする事が出来ます。これからも心の拠り所として、その気持ちを大切に引き継いで行きたいと思います。大勢の講員と共に笠間稲荷神社へ参拝出来るようにしたいと思っています。

当社には古くから「講中」という団体で参拝される崇敬者の組織があります。

地域、血縁、仕事仲間など、稲荷大神様とご神縁を結ばれた様々な講中が全国各地で活動しています。今回、ご紹介するのは・・・

講員紹介



菅谷 淑男

中峰笠間講役員
中峰区副区長
建築業

建築業を35年一筋に行って参りました。

神棚に毎日手を合わせて、家族の健康と仕事の安全を祈念しています。

「仕事仲間を大切に」というのが人生訓です。

中峰区の皆を誘って笠間稲荷神社へ参拝したいと思っています。



平山 元一

中峰笠間講役員
中峰稲荷神社総代
農業

中峰稲荷神社鎮座以来、氏子世話人を務め二代目になります。

三橋氏と共に中峰稲荷神社の資料作成等に尽力しています。

中峰神社の総代として、祭りの準備や神社の管理に努めています。



三橋 武雄

中峰笠間講役員
中峰稲荷神社総代
農業

中峰稲荷神社鎮座以来、氏子世話人を務め三代目になります。親

は自転車で笠間稲荷神社へ参拝に行ったと聞きました。講運営にあたり、当番になれば区内の各戸（講員）を廻り御札の希望を取るなどしています。中峰稲荷神社の歴史を後世に伝えるため、資料作成にも携わっています。



島田 正雄

中峰笠間講役員
中峰稲荷神社総代
会社員

中峰稲荷神社鎮座以来、氏子世話人を務め四代目で、先祖は嶋田

作蔵氏です。

家族が日々平穏に過ごせて行けるのも稲荷大神様の御利益のお陰だと感謝し、毎日神棚に手を合わせています。入学・入社試験当日、中峰稲荷神社に合格を祈願して会場に行き、お陰で合格する事が出来ました。中峰稲荷神社は心の拠り所です。

流鏑馬

流鏑馬（やぶさめ）は、日本の伝統的な騎射の一種です。馬を馳せながら矢を射ることから「矢馳せ馬（やばせうま）」と呼ばれ、時代が下るにつれて「やぶさめ」と呼ばれるようになったと言われます。流鏑馬の名が最も古く見られるのは、平安時代の書、藤原明衡の「新猿楽記」です。当時の流鏑馬は朝廷の警護にあたっていた武士が射手となり、公家の催しにより盛んに行われていました。鎌倉時代に入ると、武家の儀式にも取り入れられ、武士の嗜好^{たしな}として行われるようになりました。



一方で流鏑馬は武運長久などの立願のために社寺に奉納されるようになり、全国の社寺に広まりました。室町時代に入り、流鏑馬はいったん中断されましたが、江戸時代に八代將軍徳川吉宗の命を受けた小笠原流二〇代小笠原貞政が奥勤めの武士たちに稽古をつけたことにより、再興され、今日に伝えられています。

現在の流鏑馬は、ほとんどが神事として行われており、全国各地の神社で奉納されています。当社では稲荷の大神様に来年の作柄の豊凶を占う神事として、毎年十一月三日に笠間藩弓馬訓練場跡に特設馬場を設け、小笠原流宗家の奉仕により古式ゆかしく行われています。

笠間稻荷神社 ご案内

月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。月詣りとは、毎月には大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感謝し、新たな御神徳を頂くことであります。月詣りの方には季節の花の色を表した御幣を授与してあります。どの月からでも始められますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



福寿草をモチーフにした御幣です（一月・金色）

祈禱案内

七五三詣り

七五三詣りは、古く子供が成長する過程で行われていた髪置（かみおき）・袴着（はかまぎ）・帯解（おびとき）といった通過儀礼が起源となっており、現在では主に三・五歳の男の子、三・七歳の女の子が詣りに来られております。

大神様の御加護により、お子様が今まで無事に過ごしてきたことへの感謝と、今後も健やかに成長する事をご家族皆様で祈念下さい。

インターネットでのご予約もお受け致しております。
ホームページ
<http://www.kasama.or.jp/>



奉納募集

当社では威儀具や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。ご奉納頂ける方は当社社務所までご連絡下さい。また、これまでに「ご奉納頂きました」ご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



◎奉納者芳名

「結婚式用台杯 一〇〇個」

国井 弥生殿

河尾 洋子殿

「千早 二領」

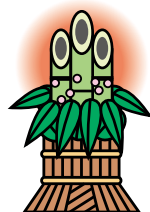
小一条 忠平殿

「陶器 薫風」

井上 壽博殿

厚く御礼申し上げます。

正月祈禱案内



平成二十三年の新春初祈禱を受付けております。
昇殿参拝をして、御祈願を致します。

◆ 祈禱時間

一月一日
〇時～五時、
七時～十七時
二～三日
八時～十七時
四～七日
八時～十六時
十六日以降
七時四十五分
～十六時

◆ 祈願

- ・家内安全
- ・商売繁栄
- ・交通安全
- ・厄除
- ・方位除
- ・病氣平癒
- ・五穀豊穰
- ・開運招福
- ・身体健全
- ・学業成就
- ・合格祈願等

※新春初祈禱の当日受付は大変混み合いますので、事前にFAX、インターネットで予約された方が便利です。

FAX 0296-73-0002
ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

お知らせ

正月期間中は、当社参集殿前駐車場は使用できません。左記地図の駐車場をご利用下さい。また交通規制をしておりますので、ご理解、ご協力をお願い致します。



狐塚



本殿の裏に狐の群れで出来た山がある、これは人々の信仰の形を山に模した「お塚信仰」と呼ばれるものです。

稲荷神社の狐は福狐と言われ、人々の願いを運ぶお使いとして親しまれてきました。

月日と共に信仰が広まり、数が増え群れとなつていきました。

深緑の中、本殿の裏から静かに人々の願いを運ぶ狐たち、時間と共に崇敬の心が広まる稲荷神社独特の風景がそこにあります。

神社の

いろは

Q 神宮大麻について教えてください。

A 神宮大麻とは、皇室の祖神である天照大御神をお祀りする伊勢の神宮のお神札（ふだ）です。神宮は日本全国をお守り下さっている我々の総氏神でもあります。ですから地域をお守りになる氏神神社と、崇敬される神社と共に、神宮大麻もお祀りしましょう。

Q 注連縄の飾り方を教えてください。

A 注連縄とは、神社の社殿や鳥居、神棚に掛けられる縄のことで、その場所が神聖・清浄な状態にあることを示しています。一方が太く、もう一方が細い注連縄の場合、一般的には太い方を向かって右側に、細い方を左側にして掛けます。

Q 稲荷神社といえば狐ですが、狐は神様なのですか？

A 神様ではありません。一般的に神社にある狛犬と同じく、神様にお仕える動物、神使です。神使は稲荷神社の狐の他に、八幡神社の鳩、春日大社の鹿、天満宮の牛、珍しいものでは二見興玉神社の蛙、松尾大社の亀など様々です。

Q 古いお神札等はどうすればよいのですか？

A お受けになった神社へお納め下さい。包装紙や袋はお持ち帰り頂きますよう、ご協力お願い致します。お納めになった時には御礼参りを必ずしましょう。



その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稲荷神社社務所 0296(73)0001



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.25 平成22年7月発行 発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001代 FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003 ホームページ<http://www.kasama.or.jp/>
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。